■今月の特選句

2011年9月号

決まり手はいつも突き出し心太　　黒田忠一

こういう奇想天外は、如何にして生れるのか。心太は「突き出す」もの→「突き出し」は相撲の「決まり手」→だから心太の決まり手は突き出し。

隠すためいや見せるため海水着　　前川敏夫

水着の露出度は高くなる一方である。「隠す」と「見せる」は対義語であるが、水着に関しては、「隠す・見せる」が見事に同居している。

更年期過ぎております竹婦人　　彦阪義久

ヒステリーを起こしたり、発熱したりはしないだろうが、長年連れ添うと傷むのでしょう。ものを言えないのだから、大切にしてやってください。

不本意な水も引き連れ滝落つる　　金澤　健

滝の上部をよく観察なさっていますね。擬人化の句。政界を重ねるとオモシロイね。拙句に、「滝の水落ちると決めてより一途」がある。

突き出され腰の萎えたる心太　　田中早苗

へなへなと器に座り込む心太を面白く表現した。腰の萎えたる…、田中さん腰痛なんですか。ならばお大事に。腰痛は心太にまかせ田中さん。

柿食へど一句浮かばぬ法隆寺　　稲沢進一

それが結局、句になれば、正岡子規と同じレベルではありませんか。尤も、子規の句は有名ですが、名句ではありません。有名句なんです。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

震災忌すぐにぐらつく総入歯　伊地知寛
・・・リフォームするか建替えせねば

日盛りに呼び出さなくてもよいものを　村上美和
・・・あなたのことよりお肌が大事

人生にためらひ多しクールビズ　藤森荘吉
・・・そのうち廃れる思いつきだろ

斬られ役何度も斬られ夏芝居　百千草
・・・倒れ上手もパターン化する

樹々を縫ひいまにぶつかる黒揚羽　加藤　賢
・・・忙しいのに大きなお世話

西瓜割り腕は北辰一刀流　飯塚ひろし
・・・見事にはずれきまりが悪い

八ツ裂きの刑に処せらる焼茄子　有吉堅二
・・・私がなにかしたのでしょうか

沖縄戦秘録より紙魚投降す　工藤泰子
・・・姫百合部隊の悲劇を伝えよ

玉葱と話すといつも涙声　森岡香代子
・・・泣きたいときはいつでも泣ける

ソプラノもアルトも集ひ蝉しぐれ　久我正明
・・・唄ひつなぎの技も巧みに

台風の一過は娘一家とも　高橋素子
・・・実家の親に甘え放題

田の水の沸きて足湯にいい温度　伊藤浩睦
・・・ついでに泥の美容もどうぞ

女にも流行るすててこショールーム　笠　政人
・・・次に流行るは越中六尺

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	斧虫の色はめぐりの土と錆ぶ	青山桂一
	野分あり列島半分玩具箱	青山桂一
	礼節を知らぬ炎帝東北へ	青山桂一
【佳作】	介護師に夜勤は了へた梅雨明けた	秋月裕子
	節電の薄墨色に駅涼し	秋月裕子
	噴水のしぶきのあなた舞ふサンバ	秋月裕子
	サングラス気取れど所詮色眼鏡	麻生やよひ
	野面積み蟻の出入りは問はれずに	麻生やよひ
	蛍撮る携帯カメラの青光	麻生やよひ
	去年のことまだ忘れない十三夜	足立淑子
【佳作】	敬老日生きているよとメール打つ	足立淑子
	地球儀をくるりと行く秋を追って	足立淑子
	盆踊り下かとおもえば上を指す	有冨洋二
	大花火上がるころには酔いつぶれ	有冨洋二
	南瓜を取り込む爺の石頭	有冨洋二
	議事堂を睨み据ゑたる鵙高音	有吉堅二
	朝顔の探しあぐねし釣瓶かな	有吉堅二
	立秋や節電節買節遊山	安藤淑子
	丑の日も寅の日も無し節メニュー	安藤淑子
【佳作】	夏負けに爺のかんしゃく噴火せず	安藤淑子
【佳作】	音頭取年に一度の腰を振り	飯塚ひろし
【佳作】	天高し我が大気図は晴れ続き	飯塚ひろし
	冷奴懐メロばかり唄ふ人	井口夏子
	雷や鬼平いよいよ馬を引け	井口夏子
	扇風機足指体操グーチョキパー	井口夏子
【佳作】	ごきぶり殺しの達人死刑廃止論者なり	池田亮二
	河太郎に尻舐められて夏となる	池田亮二
	秋の蝉地震にうかと寝過ごせり	石川節子
【佳作】	徘徊の母を見つけし盆の月	石川節子
	ゆっくりと直る黙祷広島忌	板倉肱泉
	蛸さげて戻りて来たる日焼の子	板倉肱泉
	にぎやかな乳児検診蝉時雨	板倉肱泉
【佳作】	還暦はまだ下働きの敬老日	伊地知寛
	ガリレオも動くと言ひし天の川	伊地知寛
	かき氷電話終れば砂糖水	伊藤浩睦
	あとでやるあとはいつ来る飯饐える	伊藤浩睦
【佳作】	生きるとは年をとること鰻食ふ	稲沢進一
【佳作】	今年まだ洗はぬ網戸あれば足る	稲沢進一
	夏休みラジオ体操シルバーも	井野ひろみ
	了解のメール「暑い」と添えられて	井野ひろみ
	盆踊り金魚すくいに夢中の子	井野ひろみ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	炎天をくの字ばかりの蚯蚓かな	今城夏枝
【佳作】	音だけを聞いてをりけり遠花火	今城夏枝
	西瓜らしい西瓜と味を褒められる	今城夏枝
	阿波踊月給順に会社連	宇井偉郎
【佳作】	七夕や目隠しシール張りてまで	宇井偉郎
	たふさぎを二歳の孫に咎めらる	宇井偉郎
	新婚の可愛ゆき夏の噓かな	宇佐美徹郎
	空蟬の執念ばかり残りけり	宇佐美徹郎
【佳作】	幽霊の出場所に思案都市の夏	宇佐美徹郎
	一人でも同行二人秋遍路	氏家頼一
	閻魔道盗人萩の花盛り	氏家頼一
	蟷螂と挙手の礼にて別れけり	氏家頼一
【佳作】	賜はりし余生のひと日夏競馬	越前春生
	ハンモック昨日の酒の残りをり	越前春生
	呆けゐて綺麗な柄の浴衣着る	越前春生
	穂薄のあたりを基地に少年ら	大隅真理子
	里芋の煮物で試され箸使ひ	大隅真理子
	夏立つやテレビ体操座して見る	奥脇弘久
	向日葵やこっち向いてほいに知らん顔	奥脇弘久
	炎熱に百日紅の独り勝ち	奥脇弘久
	腕白の俺がわれがと雲の峰	笠　政人
【佳作】	蠅取蜘蛛とんでころんで暇つぶし	笠　政人
【佳作】	メトロの風は節電の風なまぬるし	加藤澄子
	ブラウスの花柄トンボ止まらせる	加藤澄子
	燕の一番子飛行開始や雨上がり	加藤澄子
	悪筆や手の甲を刺す蚊が小癪	加藤　賢
	うつし世の橋の途中や蓮の花	加藤　賢
	信州も甲州の子も海の日や	金澤　健
【佳作】	蓼食ひし虫の陥る自己嫌悪	金澤　健
【佳作】	熱帯夜包丁を研ぎ魔女めきぬ	川島智子
	水打って水飲んで寝る猛暑かな	川島智子
	土用浪沈没前に左京逝く	川島智子
【佳作】	ドア開きて先づ炎風の乗り来たる	川高郷之助
【佳作】	枝豆や嗤はれながらオヤジギャグ	川高郷之助
【佳作】	人妻と両手つないで踊の輪	川高郷之助
	雲の峰ひよいと乗りかへ孫悟空	久我正明
	拾ひ上げまた落としたり落し文	久我正明
	霍乱の魔笛のアリア聴いてをり	工藤泰子
	石垣を袈裟懸けにして蛇の衣	工藤泰子
	告白は当つて砕けろ西瓜割	倉方　稔
【佳作】	古希すぎて俳諧狂ひ百日紅	倉方　稔
【佳作】	花氷隠す術なし薔薇の棘	倉方　稔

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	散歩かな汗の油で五感研ぐ	黒田忠一
	女子高生四葩ゆさゆさ走り来ぬ	小杉　隆
	藤寝椅子パイプ燻らす軽井沢	小杉　隆
	おさな児の纏はる母の片陰に	小杉　隆
	恐ろしや蛇に衣を脱がれけり	小林英昭
	風のない時のヨットのやうな夫	小林英昭
	いたづらをする方の手に汗をかく	小林英昭
【佳作】	「なでしこ」を国花に日本再生へ	齋藤八兵衛
	原発の被害者なのに加害者に	齋藤八兵衛
	原発を核ではないと言えますか	齋藤八兵衛
	そわそわと優先座席敬老日	酒井鹿洋
	弁慶の背後手薄や菊人形	酒井鹿洋
【佳作】	結婚の指輪くい込む敬老日	酒井鹿洋
【佳作】	夏柳うわさ話が風を呼ぶ	坂本牧子
	海風と山風出会う夏座敷	坂本牧子
	海風に吹かれてみたい夏帽子	坂本牧子
	サービスの団扇にずいと手を伸ばす	桜井宇久夫
【佳作】	夏の夕足湯つつまし混浴に	桜井宇久夫
	スタンドに灼かれ尽きたる郷土愛	桜井宇久夫
	鴫焼きの鴫を探してゐる児かな	佐藤古城
	水虫は父に汗疹は母似かな	佐藤古城
【佳作】	臍隠しつつ雷逃ぐる姉おとと	佐藤古城
	朝顔も空を仰いで雨乞いよ	佐藤義子
	納涼にやけ酒飲んで胸痛む	佐藤義子
	扇風機ついに出番よエコの夏	佐藤義子
【佳作】	悔しくも夕立予報当りけり	佐野萬里子
【佳作】	血を吸いて丸くなりたる蛭落す	佐野萬里子
	田草取汗を拭ひし顔に泥	佐野萬里子
	白絣着てオスカルと囃さるる	猿渡　仁
	浴衣着てVサインしか能なきや	猿渡　仁
	蝮酒今宵女人等皆可憐	猿渡　仁
	節電やボリューム下げぬ蝉時雨	澤田蔦恵
	冷奴あればこと足る夕餉かな	澤田蔦恵
	被写体は彼女にあらず雲の峰	澤田蔦恵
【佳作】	絵日傘を年を忘れてさしてをり	塩川友艸
	ぐうたらに生きて一生蝉時雨	塩川友艸
	端居して家族に忘れられてをり	塩川友艸
	捌け口を探して梅雨は雷おとし	柴田真一
【佳作】	宇宙界原発星は村八分	柴田真一
	鍋叩き案山子も昔守り神	柴田真一
	冷し酒立志伝いま充電中	清水呑舟
	呑ん兵衛のぴたりと止まる夏のれん	清水呑舟
	五時限目古文時々威銃	清水呑舟

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	肉まんの酷暑の口を砲撃す	下嶋四万歩
【佳作】	抜き足の空き巣見習ひ阿波踊	下嶋四万歩
	妻のほか余人はをらず家暑し	下嶋四万歩
【佳作】	吾の如脱線適に蟻の列	壽命秀次
	ゾンビのやう宵のビールに生き返る	壽命秀次
	海水浴揺れる姿体やロハに観る	壽命秀次
【佳作】	首振って愛想振りまく扇風機	白井道義
	もしかして本気なのかも水鉄砲	白井道義
	取り立てて趣味もないのに熱中症	白井道義
	網戸を上手にすり抜けてったくしゃみ	鈴木和枝
【佳作】	背を伸ばして猫続きをまた寝る	鈴木和枝
	アアイイウウ血圧計容赦なく締める	鈴木和枝
	夜道では目をキラキラと猫の恋	鈴木哲也
	今晩は竹の子入りのまぜごはん	鈴木哲也
	軽食やトーストの上トマトのせ	鈴木哲也
	亜米利加を蹴散らす大和なでしこの夏	鈴木みのり
【佳作】	梅雨明けて顔の大きなドラえもん	鈴木みのり
【佳作】	雲の峰サンチョパンサが馬を曳く	鈴木みのり
【佳作】	はたた神電力不足嘲笑い	高田敏男
	送り火に送られている旅の人	高田敏男
	稲妻やじっと堪えて夫一人	高田敏男
	蝉時雨バルタン星人大集合	高橋マキコ
	屍や拾う者なし蝉時雨	高橋マキコ
	ひぐらしの独奏を聴く夜明けかな	高橋マキコ
	わが町の向日葵みんな右を向く	高橋　都
【佳作】	なでしこが隅に咲いてたサッカー場	高橋　都
	想定外の言葉覚えぬ夏盛り	高橋　都
	裸婦像に朝顔夜這ひの蔓伸ばす	高橋素子
	汗をかき試着のＴシャツ脱ぎにくし	高橋素子
【佳作】	ソーダ水思い出の中緑色	田中章子
	うらなりの姿も瓜の馬になり	田中章子
	芋虫の求肥のごとくうす緑	田中章子
	記憶術師もど忘れの大暑かな	田中　勇
	炎帝やクンダリニーで精力す	田中　勇
	炎昼やコップの水の蒸気観る	田中　勇
	婆の尻むずむずとして盆太鼓	田中早苗
	南瓜持ち逃げるましらに一句生れ	田中早苗
【佳作】	迎え火や普段はメリーウィドウも	種谷良二
	「まずビール」で始まる宴の長きかな	種谷良二
	ギシギシとビアガーデンのパイプ椅子	種谷良二
	気まぐれの風に風鈴大あわて	田村米生
	蝿語とは手話と足語のごっちゃまぜ	田村米生
	すててこの娘のあぐらさまになり	田村米生

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	性欲と言う妖怪の棲む草いきれ	土居忠行
【佳作】	うさん臭い儲け話や泥鰌汁	土居忠行
	夫不倫苺に母乳したたらし	土居忠行
	天国の近くまで行く暑さかな	飛田正勝
【佳作】	父の歳までが口癖生身魂	飛田正勝
	デジタルに天と地繋ぐはたた神	飛田正勝
	夜這星燃えて通へば一ッ飛び	永島董玉
	敬老日茶呑みばなしは死後のこと	永島董玉
【佳作】	野分去る牧場の馬の背を分けて	永島董玉
	肉肉肉肉こんがりと海水着	西をさむ
	ストリッパーに成り損なって水着かな	西をさむ
	水泳の講師引き受け救助犬	西をさむ
【佳作】	秋風や早朝に干す不倫物	秡川竹宝
	浮気鴨ピエロに変身妻の前	秡川竹宝
	不倫断つ秋のキャンディーほおばりぬ	秡川竹宝
	静々と衣を脱ぐ蝉をみて一夜	原田　曄
	ひらめきて宝くじを買ふ我鬼忌かな	原田　曄
【佳作】	昼寝覚右手全き無感覚	原田　曄
	御仏に留守を預けて巴里祭	ひがし愛
	幼子の横綱歩き雲の峰	ひがし愛
	公園の緑蔭鳩に占拠され	ひがし愛
	夏休み秘密基地てふ設計図	彦阪義久
【佳作】	香水は追わないといふ経験値	彦阪義久
【佳作】	小鳥くるひばり館まで車屋さん	久松久子
	赤とんぼ石に焼印押してをり	久松久子
	節電に早寝早起き今朝の秋	久松久子
	夏の暮遊び疲れの足二本	日根野聖子
	天を衝く怒髪折らねば洗へぬは	日根野聖子
【佳作】	いやいやをして強情の扇風機	日根野聖子
	羽根無くす進化を遂げし扇風機	広瀬雅幸
	にさんにち御預け食らひメロン食ふ	広瀬雅幸
	炎昼の上野のゴリラ傾ぎをり	広瀬雅幸
	箱眼鏡マグマ噴くかの泡の砂	藤岡蒼樹
【佳作】	三蔵流支日盛りの印度嶺	藤岡蒼樹
	銀漢や進化する子の金平糖	藤岡蒼樹
	ゴムゆるむパジャマのズボン三尺寝	藤森荘吉
【佳作】	絵日記のフラッシュバック夏休	藤森荘吉
	落し文音信不通をよしとして	藤原セツ子
	リフォームの日傘に母の着物の香	藤原セツ子
	どうしても一歩が出ない蝉しぐれ	藤原セツ子
【佳作】	食卓も陽除けもゴーヤてんこ盛り	古野セキヱ
	毛虫にも生きる道あり地を急ぐ	古野セキヱ
	名人の瞬時に割くや鰻の背	古野セキヱ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

あてにする方が勝手や道をしへ　前川敏夫
待人のこず噴水もしよぼくれて　前川敏夫

香水に攻めたてられて十階へ　前　九疑
【佳作】亭主の手借りて洗濯する大暑　前　九疑
【佳作】ででむしの都合も聞かず角つつく　前　九疑

【佳作】アロハ着てウクレレもてば高木ブー　松尾軍治
宵越しの金の欲しさや夜の秋　松尾軍治
夜店から夜店をのぞく灯虫かな　松尾軍治

「心太」読めず馬脚の句会かな　丸山紘一
現身か大和撫子吼ゆる朝　丸山紘一
【佳作】猛酷劫形容迷ふ暑さかな　丸山紘一

捨てた物に未練あらず蝉の殻　三塚不二
落し文拾い終日にやにやと　三塚不二
ナイターに地団駄踏んでテレビ消す　三塚不二

悲鳴沸くフォルテフォルテの庭プール　三橋一笑
舌に傷ばんそこ貼れずかたつむり　三橋一笑
今日も蟻五六匹踏んだかも知れぬ　三橋一笑

【佳作】電柱に寄ってたかって蔦茂る　村上美和
山腹を絞り絞りて滴れり　村上美和

銀河系宇宙が故郷ＴＯＫＯＲＯＴＥＮ　百千草
母の匂ひいつも後から合歓の花　百千草

おつむりを南に傾げ入道雲　森岡香代子

【佳作】なでしこで辛い日の本福の島　森　要
【佳作】日本女子ドイツでなでしこ咲ッカーした　森　要
【佳作】なでしこが男に勝る金の球　森　要

空蝉も酒さへ飲めば客のうち　守屋八郎
エコの世になりてすててこ大威張り　守屋八郎
配属になつたばかりの道をしへ　守屋八郎

夕立に一句作れと急かさるる　八木　健
目力を蛻に残し空蝉よ　八木　健
行水のことをシャワーと和英辞書　八木　健

犬ふぐりちんちんかもかも姫踊り　八洲忙閑
くすりとや病か笑みか迷ふ春　八洲忙閑
【佳作】青田波貧乏蔓の揺すりかな　八洲忙閑

【佳作】ごきぶりの話の尻を端折りけり　柳　紅生
酉年の共食ひをするビヤガーデン　柳　紅生
生ビール苦虫かぱと飲み込んで　柳　紅生

【佳作】エコライフ大英断の初クーラー　山下正純
【佳作】老いなみに仮廬の重しかたつむり　山下正純
【佳作】見下ろせば鏡連なり銀植田　山下正純

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	焼茄子の尻からくるり剥かれけり	山本あかね
	ぐんにやりと麦藁蛸を提げて来る	山本あかね
	校長と背中合せや心太	山本あかね
	ゴキブリをお盆でしとめどうしよう	山本けい子
【佳作】	忘れむとしてひたすらに草むしる	山本けい子
	夏に咲く頂点きわめしなでしこは	山本けい子
	血行が余程わるくて半夏生	山本　賜
【佳作】	夏の夢法事のつづきを見るなんて	山本　賜
	すみません撮らせて貰ふ蜘蛛のかを	山本　賜
	フンぎりのつかず厠で汗をかく	横山喜三郎
	時忘れ妻を忘れて茸狩	横山喜三郎
【佳作】	あはやあはや素つ裸なる女子選手	横山喜三郎
	丑の日の鰻高値に悲鳴あげ	渡辺さだを
	明け方のベッド目覚ます蝉の声	渡辺さだを
	汗ひかるなでしこジャパン金メダル	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。